

【生命科学部】令和8年度 学部等教学マネジメント計画書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部等教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制

学部長、副学部長、学科主任、学科教務で構成される「カリキュラム委員会」を中心に、中長期的な学部方針を策定する「将来構想委員会」を改編の主導組織として位置づけ、令和10年度の新カリキュラムの大枠策定および組織編制の検討を行う。

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

① カリキュラムマップ

現行のマップに基づき、令和10年度改編で維持すべき強みと、再編が必要な領域を明確化（新しい学びの道筋の可視化）が必要である。

② シラバス

新カリキュラムへの移行を見据え、科目の統合や新設に対応できる標準的なシラバス構成案を検討する必要がある。

③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

学部基礎科目から専門科目への体系的な接続の再構築。

今年度の取り組み

新カリキュラムにおける「8つの資質・能力」との対応関係（新マップの骨子）を策定する。改編後のカリキュラムツリーの草案を作成し、教員間での合意形成を図る。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化に向けた今年度の取り組み

課題

学習意欲の高い学生の満足度向上と、学修成果の可視化（モチベーション向上および就職活動への直結）を実現する新たな仕組みの構築が必要である。

今年度の取り組み

「生物学通論A・B」「化学通論A・B」の成績分布とそれらに紐づく演習科目との連携について解析する。特に「化学通論A」の公開授業（6月）の結果を踏まえ、演習科目の必要性や配置年次の妥当性、さらには、基礎科目－専門科目間のバランスを検証し、年度末までに改編案へ反映させる。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況から明らかになっている課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

シラバスに記載されている到達目標の達成状況や学生の資質・能力の修得状況が適切に測定できているか、

アセスメント科目を中心に検証する必要がある。

今年度の取り組み

アセスメント科目を中心に成績分布データなどの解析を行い、授業科目の到達目標や資質・能力の育成が実現できているか、学部 FD ワークショップや学部教学マネジメント会議にて議論する。これらの議論を踏まえ、令和 10 年度の新カリキュラムの大枠策定および組織編制の検討を行う。

アセスメントプランの取り組み

アセスメント科目名	検証方法（在学時）
学部共通基礎科目	☐ 外部アセスメントテスト（GPS アカデミック）
「化学通論 A」	☐ 学習成果実感調査
「化学通論 B」	☐ GPA
「生物学通論 A」	☐ 在学生調査（在学生生活に関するアンケート）
「生物学通論 B」	☐
学部共通基盤科目	☐
「物質生物化学」	検証方法（卒業時）
「代謝生物化学」	☐ 卒業研究・卒業論文
「分子生物学」	☐ GPA
「細胞生物学」	☐ 卒業時調査（4 年次生調査）
学科専門基盤科目	☐
「先端生命科学特別研究 2」（先端生命科学科）	☐
「生命科学プロジェクト研究 2」（先端生命科学科）	
「産業生命科学特別研究 2」（産業生命科学科）	

取り組み内容（「8 つの資質・能力」の達成方法など）

学部共通基礎科目 4 科目については、GPA の成績分布データの精査から、「授業の到達目標」の達成ができているか検討していく。学科専門の基盤科目である特別研究およびプロジェクト研究（卒業研究科目）については、学部の卒業研究発表会での発表や卒業論文などの成果物を指導教員が評価する。

その他

特になし

※この内容は、本学における教学マネジメントの一環として、本学 HP へ掲載します。